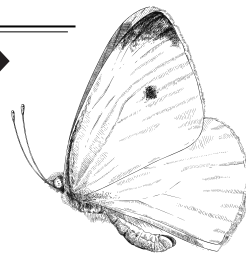


# 私生活の時間



April 10, 2020(令和二年)

Vol.015

## 集まるネットでお酒から生まれる幸せ

### お酒から生まれる幸せ

お花見、異動先での歓迎会、そして入社式。本来であれば4月は楽しいイベントが盛りだくさんだった。でもコロナリモートのせいで、リブセンス社員は「塔の上のラプンツェル」状態。一人黙々と作業するのは効率的だが、やはりみんなワイワイ仕事ができる環境が恋しくなる。こんな時、いつもなら「じゃあばあっと飲みに行きませんか!」と提案できるのだが、それも中々難しい。そんな最中「Zoom」を繋いでみんなで飲むというのが流行っているという噂を耳にし、実際に会を催してみた。

当初は「果たして盛り上がるのか?」と半信半疑だったが、やってみ

たらこれが予想以上に楽しい。相手との距離を感じるところか、自分の部屋で話す居心地の良さが相まって、普段出来ないようなざつぐばらんな会話ができる。しかもZoomを切ったら会はお開きになるので、帰りの電車を気にする必要がないのも有難い。

楽しかった会話の余韻に浸りながら、すぐに床に就けるのも、満足度を高めている要因の一つかもしれない。

お試しで実施したZoom飲み会だったが、今となつては週に1〜2回は開催するほど気に入っている。また周囲でも、Zoom飲み会を開いたという声を度々聞く。思い通りに外出できない、欲しいものは売り切れで手に入らない。しかし不自由な状態が続く中でも、今あるものから自分なりの幸せを生み出し、そして周囲を幸福にする。そんな風に創意工夫をこらし「幸せから生まれる幸せ」を創出するリブセンスの文化を象徴する一つがZoom飲み会なのかもしれない。

Zoom飲み会のマストツールはカメラオン(提供:小松田みなみ)



## 企業の持つ横顔

### 探る、私たち「らしさ」

経営デザインプロジェクトがコーポレートアイデンティティ(以下CI)を策定しようとしている。CIとは企業が自社の文化や独自の価値等をメッセージ・デザイン等で発信するものだ。

アイデンティティの直訳は「自己同一性」である。企業にとっての「自己」とは何を指すだろうか。企業には社員や提供するサービスなど様々な構成要素がある。リブセンスのようなウェブ企業の場合は社員の入れ替わりやサービスの变化も速い。そもそも「らしさ」というのは必ずしも一貫した唯一のものとは限らない。

い。企業の「同一性」を考える上では「側面」という観点が要だ。誰に見せるどのような側面であるのか、誰から見たい側面であるのか。横顔を見るだけではその人全体を知ることはできないが、横顔がその人でないわけでもない。このたび経営デザインプロジェクトが定義しなおそうとしているのは、そのような「リブセンスの多様な横顔」である。

企業には提供するサービスや市場価値と共に、社会に対する存在価値、言い換えれば社会に対して果たすべき義務がある。資本主義の市場原理

の中では忘れられがちだが、リブセンスでは大切にしたい側面だ。

様々な観点から過去を探り、魅力を掘り下げ、これから伸ばす価値や強みを設定していく。Discoverプロジェクトはその試みの始点である。

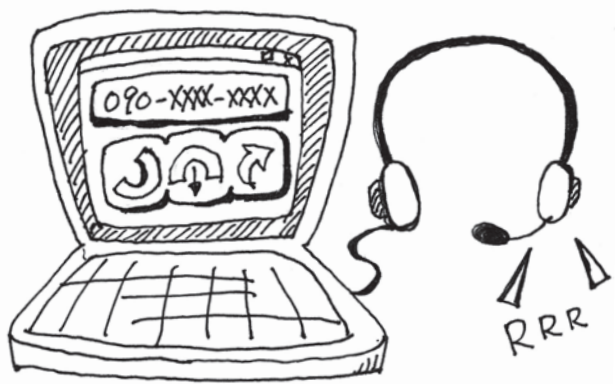
(渡辺もも)

### うたかた

家でのお酒という踊りをやってみた。窓があいているのに気付き別の汗も流せました(千葉大樹)

釣り糸を垂らすと季節を感じられます。今は鯖、サヨリ、初鰹が美味しいですよ。(黒木省后)

目黒の川面に飛び散る桜をSNSで見た。美しさは儂いなあ。胸に焼き付けたまた来年。(谷川さやか)



## ソフトフォン導入 迅速なリモートワーク対応

3月末、ソフトフォンZoiperの利用が始まった。ZoiperはPC上で電話ができるツール。今まで電話業務を対応する部署は出社が必須だったが、リモート化の流れを受け急ピッチで導入に至った。

「もっと根本的に電話業務を見直す話はないんです」と総務グループの金原寛顕さんは苦笑する。全社的な業務改善として、IP電話ツールの変更や業務の位置づけを協議する予定だった。

機能が向上や管理コスト削減も叶う、と語るのはCTSの黒木灯香里さんだ。しかし状況は急激に変化した。Zoiperはクラウドでの利用実績があり、導入まで大きな障害はなかったという。しかし全部署で使い始めて、想定しなかった課題が出てきた。大きかったのはどの番号への受電か判別できない点。複数の電話番号を対応する業務でやりにくさが生じている。現段階では「ウィスパーリング」という、電話を取ると会話の前にどの番号への電話かが電子音声で通知される機能を使っているが、使いづらさは残る。

これがベストとは思っていない、と2人は口を揃える。現場と緊密に連携し、中長期的により良い環境を作り上げていくことを目指す。

どこでもワークが全職種で使えるようになった以降も、電話業務のある部署は活用できず、不公平感が生まれていた。突貫であっても、業務内容に関わらず制度活用できるようにになったことは喜ばしい。状況に即応し柔軟に変化できることは組織の強みとして活かしていく。(志賀響子)

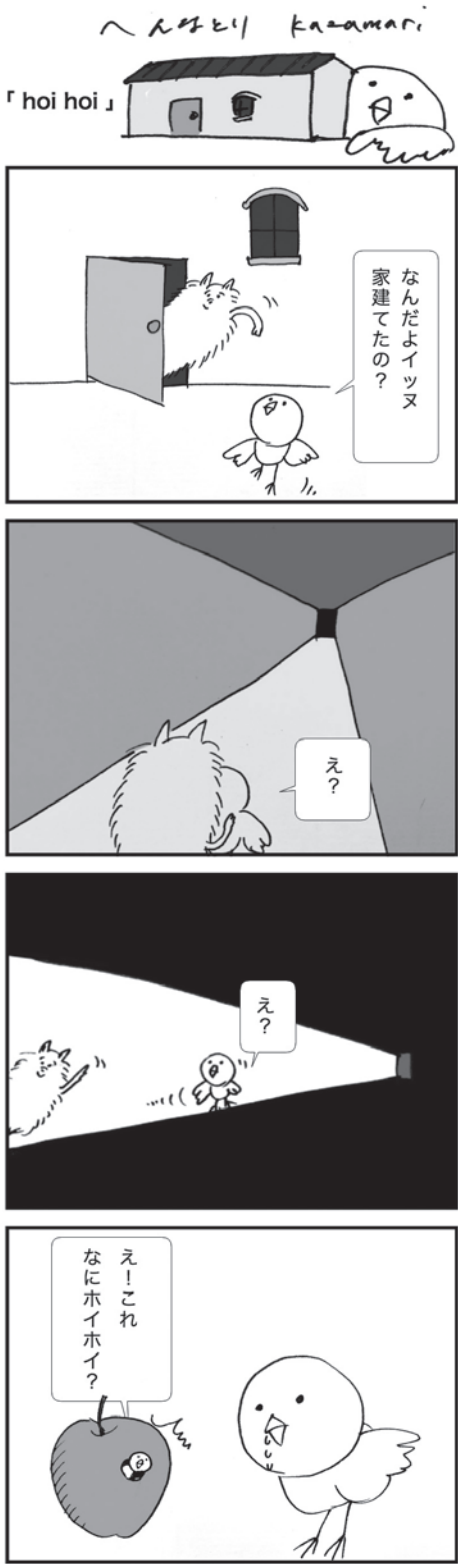
### 論説

例年この時期になると『入社1年目の教科書』という本がメルカリに並ぶ。配る人と売る人がいるわけで、それだけ評価の分かれる本なのだろう。確かに古めかしさを感じる内容ではあるが、古めかしいことと良し悪しは関係がない。▼羅列されたレッスンの中に「新聞は紙で読め」という項がある。これまた古めかしさの自分なら一蹴しただろうが、そんな自分が今や紙の新聞を発行する立場になっている。なぜこんなことが起きたのか。▼結局教えから学ぶことはそれ自体が困難なことなのだ。それ

は教えが無駄だとか、この本が駄目だとかいう話ではない。意味の撃鉄を起こして自己を撃ち抜くには、ラディカルな学びが必要なのである。でなければ一蹴されるだけだ。▼だから、もし本気で学びたいならば、浅薄さを軽蔑せねばならない。わかりやすさや評判に訣別し、少数の仲間とともに地道に進んでゆくこと。それは器用や要領とは無縁の茨の道である。そうした深い学びはそれでいてほとんど役に立たないが、世界が夜を迎えるこの時代に遠くを照らしてくれるのは、やはり強度を備えた知の灯火なのである。

2020.4.10(桂大介)





Hello, Women Who Go Tokyo!  
**We Love Go 言語!!**  
女性とジェンダーマイノリティのGoコミュニティです

**ナコウド出演ラジオスタート!**  
宮崎のナコウドがラジオパーソナリティに抜擢!  
毎週土曜日AM10時はサンシャインFMのラジオ活で!

**テキスト広告募集**  
掲載無料!お気軽にお近くの  
LivesenseTimes編集部員、または桂までご連絡ください☺

往復書簡  
**成長しない 僕ら**  
細井広太郎×平尾静

第六回

なるほど。社会は自分と別個の存在でなく、自らの解釈でいかようにも変わるということですね。捉え方次第で無数に生まれうる価値基準の中で、どれを大事にするか選ぶのはあくまで自分である。世界をそう捉えられるなら、我々は生きる意味を社会に乗っ取られずに済みそうです。

羨ましいな。私は選択に力むことが多いので。周りの人に笑ってほしいし、失望してほしくないし、何より私は失いたくないし。正直、かつこよくいたいんですよね。退化に見えるかもしれない生き方。私にとってはこの方をするのは怖いんです。私の場合はそんな雑

念も入って来ますから、日々自己対話の連続です。生きる意味は、外部情報が自己と化学反応を起こしながら日々更新されていくものかと思えます。いろんなものがない交ぜになってきた自己を鑑みながら成長の方向を選ぶ時、私はいつも迷います。この思考は明晰か。この道の先に後悔はないか。最良の選択をしたと誇れずとも、最善を尽くしたと苦笑くらいはできるのか。考え、判断して歩き出す。力を抜いてとまでいきませんが、これを繰り返して、私は私なりに生きる意味の判断基準を磨いてきました。少なくとも以前より、私は私が後悔しない生き方を知っている。私にとってはこの過程こそ「成長」ではないだろう。

編曲を担当した桑田佳祐の真夏の果実、希望の轍は1990年の曲だが、同年にヒットwon't be longと比べると全然古さを感じさせない。リスナーの年齢や時代に左右されない普遍的な正解が、氏

JPOPを代表するポップスバンドといえ、サザンとミスチルが筆頭に上がってくるだろう。その両者に編曲家として関わったのが小林武史で、氏こそ今日のJPOPの王道スタイルを作り上げたといっても過言じゃ

JP OPを代表するポップスバンドといえ、サザンとミスチルが筆頭に上がってくるだろう。その両者に編曲家として関わったのが小林武史で、氏こそ今日のJPOPの王道スタイルを作り上げたといっても過言じゃ

## Connecting The Dotsを実践する


のワークからは感じ取れる。中でもミストラルのコードワークには魔法がしかけられている。その魔法とは4つ借用コード(調性外の和音、F#7,G#7,C#7,A#7を入れたことだ。あるメロディーに対して、当てはまるコード進行には膨大なパターンがある。しかしながらこのコード進行には、これ以上のものは絶対に存在しないと思わされる。それぞれの和音が持つ光と影、その最適なバランスによって感動は作られるが、この曲はその塩



(提供:大谷崇介)

梅が最高だ。僕は、こんなふうに感動が何によってもたらされるのかを分析するのが昔から好きだった。因果の要因の部分で構成する要素を洗い出して、それらがそれぞれどのように組み合わせられて結果が出力されるのかを論理的に把握しておきたい。こう書くと理系っぽいですが、数学も理科もむしろ大嫌いだった。感動がなかった。素因数分解?平方根?それができて人生に何の意味があるんだろう。こんなつまらんものは一生やらなくてよらしい。数学くんよ、さらば。こうしてめでたくクソ学生の仲間入りをし、以降怠惰に時を過ごすことになった。ところが人生わからないもので、26歳で急に勉強に目覚めることになった。しかもその契機になったのは、理系の牙城だと思ってたプログラミングに目覚めたことだった。魔法使いになったかのような快感がたまらず、家に帰ってもずっとコードを書いてた。夢中になると、上達を渴望するようになる。すると今度はデザインパターンなる新たな扉が開く。シングルトン、ファクトリー、ファサードと次から次へと試していった。こんなことができるようになった、嬉しい。もつとできるようならう。そんな内発的動機に突き動かされて、学び、試すというサイクルをひたすら繰り返した。やがてマーケティング、会計、統計と興味は非線形に広がり、ついに数学までたどり着いた時、中学生の頃に抱いた「何の意味があるのか」が解消された。カタルシスを得た。利益が最大化される投資額は微分で求められる、それを理解した時に、点が線になる。因果関係を数学を使ってモデリングすることが可能になったのだ。数学を使った究極の抽象化は、1000の言葉より雄弁にその事象を説明する。さらにプログラミングを使えば、モデリングもその利用も簡単にできる。こうして点がつながった時、とてもない武器を手にしたかのような高揚感に包まれた。

ここからは新入社員に送りたい。スキルの習熟度が長時間×生産性で決まるとして、そのどちらも爆発的に高まるものが興味だ。興味があるものがあれば、ひたすら突き詰めてみよう。そうしたら新たに興味が湧くものと出会う。



大谷崇介  
転職ナビ事業部所属。普段は星野さんの下僕として従事。かつてマネジメントに一切興味を持てなかったが、野良猫を拾ったことで、急に育成に目覚める。

それもひたすら突き詰めてみよう。振り返ってみると、スキルだけでなく、発想力/洞察力/思考力/そして絶対的な自信等、様々なものを得ているはずだ。この逆算ではなく積み上げを大切にすることをステイプ・ジョブズはこう呼んだ。Connecting The Dots。